

清澄寺



仁王門





緊急避難場所
Emergency Shelter
火災・地震時
避難所

交通安全
車・交通
祈・安全
橋
本山
堂
交付へ









正面は大堂





納
南無高祖日蓮大菩薩
大井町 盛岡商店

納
南無高祖日蓮大菩薩
大井町 盛岡商店

本堂か













大堂の左手は祖師堂







祖師堂





正面は信育道場



信育道場/RC造







観音堂





鐘楼





正面は中門



中門/江戸時代初期





清澄寺中門

この門は、「中門」と呼ばれ、清澄寺縁起によりますと、正保四年（一六四七）に創建され、天保八年（一八三七）に改修されています。

構造形式は、一門二戸の四脚門で、屋根は茅葺きの切妻造りです。主柱は冠木をもつつなぎ、主柱上には平三斗を置き、実肘木で妻虹梁をささえ、その上に背の低い大瓶束を立て、更に平三斗を置いて棟梁をかけ、正面冠木の上の虹梁中央のみ本幕股を置いてあります。

主柱の左右に袖板をつけ、正面右側にのみ通路用の小さな扉がつけてあります。

軒は三軒につくり、妻軒については、深くしてあり耐湿、防風への効果を考慮していることがうかがえます。

様式は、和様を主とした折表様式で、江戸時代初期の建築物としては、彫刻などの装飾も少々簡素な美しさがあります。この美しさは、天保年間の改修の際も損なわれることもなく残っています。

昭和三十九年四月二十八日に、千葉県指定有形文化財となりました。











清澄寺宝篋印塔

この宝篋印塔は、当寺の境内中庭にあり、高さは一五七センチで、房州産の嶺岡石でつくられ、塔身には、大目如来の像や、天鼓雷音、無量寿、間敷華王各如来の種字が彫まれています。肉厚な台右上部の反花、外傾した笠の隅飾りなどに、室町時代の特徴がよくあらわれていること、彫まれた銘文により、応永十四年(四〇七)の創建であり、塔の建立趣旨も明確なところから、千葉県内の宝篋印塔の標本的遺品として、昭和四十年四月十八日に、千葉県指定有形文化財となりました。なお、紀年銘こそありませんが、同形式で、同時代の作と推定されるものが、中門脇の大クヌの根元にあります。





宝篋印塔/室町時代



庫裡/今回の地震で被害を受けたようだ



庫裡(本院)



ここに左甚五郎作の「鎮火牛」があるという





一刀彫の鎮火牛



宝物館



正面は埼玉県大里郡寄居町の道禪が作者という梵鐘



梵鐘/南北朝時代末







報恩殿



前方は「清澄の大杉」





房総の魅力500選

千葉県観光物産局
「房総の魅力500選」は、千葉県観光物産局が
「観光客の皆さんが千葉県を訪れる際に、ぜひ
見ていただきたい」500の観光資源を選定し、
紹介するための冊子です。

清澄の大入り

この地は「千年紀」と呼ばれ、昔懐かしの入道場として
知られてきました。清澄の大入り、野の原の大入り
があります。野の原に近い部分が大入りですが、本
の麓は大入りです。大入りは平野ですが、全体的に大入りの
大入りといわれています。



正面は練行堂





慈覺大師求聞持御修行
日蓮大聖之法華御修行靈坊
法運大徳止眼断疑忘彼行

練行場由来

此處はその昔、若き日の日蓮聖人が、身心練磨の爲
修行された聖跡で、古來練行場と云はれております。
然るに当寺は徳川時代の初めより真言宗の法脈属
として、たまたま練行場については絶えて蹟彰されずと
なりました。
第十五代日蓮宗管長池上本門寺六十八世貫主久保田
日龜大僧正は深くこれを遺憾として、この聖地、法華経の
ご本尊を奉安することを熱望し、その浄業の達成を
本化居士法蓮、小林幸太郎に懇囑しました。感激した
小林法蓮居士は、明治四十三年七月登山して此の地で三七日
間、止暇断眠の苦行を敢行し、自ら謹寫した十界の
ご本尊を祀り、初志を貫徹したのであります。勿論此間
には様々な迫害妨難がありましたが、居士は悉くそれらを
克伏して天晴れ久保田日龜管長の目託に應じた許りと
後の大正十二年の日蓮聖人想を森銅像建立の端緒を開き
更に昭和二十四年真言宗を高脱し日蓮聖人正統の宗門に
帰属する原因となりました場所であり、爾來小林法蓮
居士の信仰を継承する人々が報恩会を結成し昭和五十二年
練行堂の大改修により目出度く法蓮居士の板本尊奉安
され今日に至っております。

練行堂







日蓮聖人銅像

日蓮大聖人 御年三十二歳 建長五年四月二十八日
早晚旭日に向い初めて南無妙法蓮華經と御題目をお
唱えになつた聖地であります 此の聖地に大聖人の
銅像建立が發議されたのは大正十一年でありました
當時は未だ真言宗の時代でありましたが時の日蓮宗
管長河合日辰大僧正と當寺の住職玉瀧義秀大和尚の
微妙不思議とも云うべき意氣の投合からこの問題が
急速にすすみ全国より日蓮宗寺院篤信有志の淨財に
依つて翌大正十二年八月三十日に建立されたのであ
ります

完成して二日後に関東一帯を襲つた大震災にも何等
の損傷を蒙ることなく巖然として直立し平然として
合掌せる尊容は正に生ける大聖人に面奉するが如く
であります 傍に立つ記念碑の表裏にこと細かに記
されている建立由來及び建立發起靈感略記はまこと
に感銘深い文章で殊に文末にこの聖像は二度に亘つ
て管長日辰大僧正の夢枕に立ち御告げを授けた虚空
藏菩薩が御自らお造りになられたものと断じておら
れることは当山に参詣する人々にひとしおの感激を
おぼえさせます

聖像はこの山頂に建てられております





納経塔







正面の萱葺きは中門



手前は観音堂



正面は仁王門



手前は報恩殿、その後ろは信育道場



左を進むと仏舎利塔

